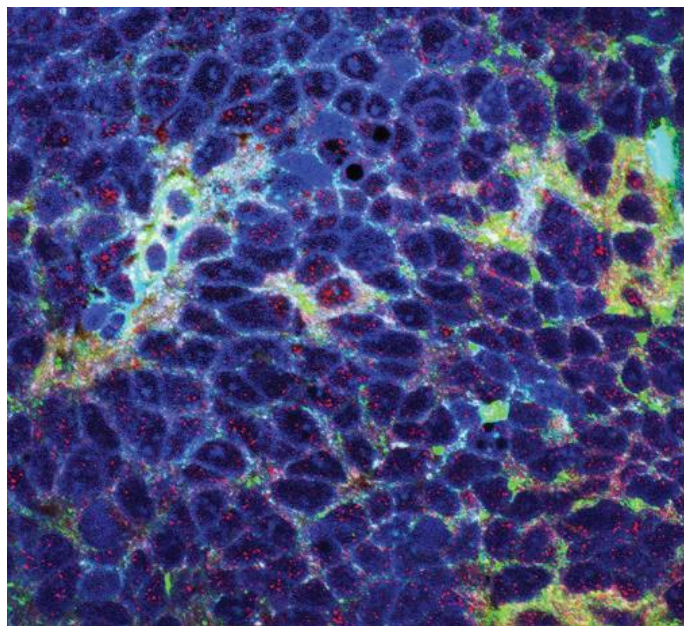
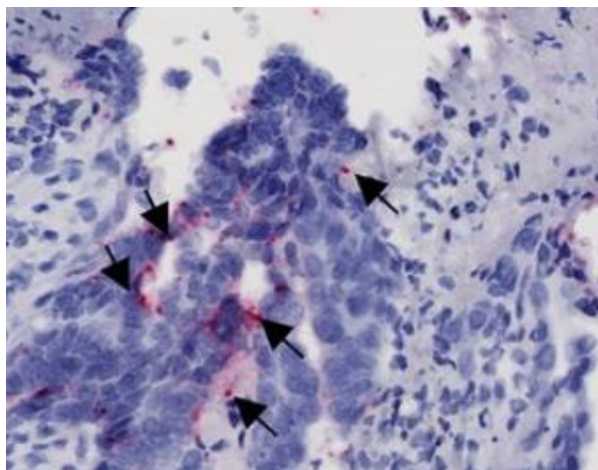


歯周病原因菌フソバクテリウム と大腸内視鏡検査

Fusobacterium nucleatum は口腔に常在するグラム陰性嫌気性菌であり、歯周病をはじめ各種感染症の原因となるほか、近年、大腸がんとの関連が指摘されています。



Dana-Farber Cancer Institute の Bullman らは、大腸がんにおける Fusobacterium およびその関連微生物のコロニー形成が、遠隔転移でも維持され、マウス異種移植片では、Fusobacterium と関連微生物が継代培養の過程で維持されることを Science 誌に発表しました。さらに、このマウスにメトロニダゾールを投与すると、Fusobacterium 量が減少し、がん細胞・腫瘍の増殖が抑制され、抗菌薬による大腸がん治療の可能性が示唆されました。



今後、Fusobacterium 感染例における大腸内視鏡検査の必要性についても検討を要すると思われる。